

わかすげ

題字 院長 神 雅彦



題 野辺地病院 山田 芳松・作

わかすげの由来：菅（すげ）は、繁殖力の強い植物で、古来から当地域には、菅笠、菅畳、菅枕等々生活に欠かせない貴重なものであった。

当院の看護師寮に「わかすげ寮」と名づけられているように、将来に期待される力強さと若い菅（職員）が地域医療の確保に一層努力することから。

基本理念

- ・患者さんの意思を尊重し、信頼される医療を提供します。
- ・研鑽に励み、質の高い医療を提供します。
- ・保健・福祉と連携し、心あたたまる医療を提供します。

巻頭言

変貌する関節リウマチ治療

内科医長 はじめに

金澤 洋



関節リウマチは全身に多発性、対症性に関節炎をきたす疾患である。関節リウマチの現状認識であるが、非常に重篤で進行性の疾患であること、予後も不良であり、悪性リンパ腫(ホジキン病第4期)、重篤な狭心症(冠動脈三枝病変)と平均余命が同等であることがいわれている。

社会医学的には医療費が膨大であり、患者の就労時間が限定されるなどの問題がある。しかしながら、関節リウマチの治療は1998年の生物学的製剤の登場を皮切りとしてこの約10年で劇的な進歩を挙げている。今回は現在の関節リウマチの薬物療法に関して述べたいと思う。

薬物療法総論

関節リウマチの治療の目標は、疾病により生じる疼痛の軽減、関節破壊の防止、機能の維持を通して非可逆的変化の出現を防止しその進展を阻害して、患者の身体的、精神的、社会的な生活の質の向上を図ることである。治療にあたっては最初に関節リウマチの診断を確実にしておく、その病状の把握を正確に行う必要がある。すなわちこの時点で患者は可能な限りリウマチ専門医の診断・評価を受ける事が望ましい。

従来の関節リウマチに対する薬物療法としてはピラミッド療法と呼ばれる投与方法が原則であったが、この方法は関節破壊の防止や機能の維持に有効でないこと、非ステロイド系抗炎症薬は予想外に副作用の頻度が高いなどの理由で、現在では適当でないと考えられている。また関節リウマチの早期治療の重要性であるが、関節リウマチの関節破壊が発症後2年以内におこりやすく、従来のピラミッド療法では治療の大事な時期(window of opportunity)を逸する可能性があることが明らかとなった。よってできるだけ早期(関節リウマチの診断より3ヶ月以内)に抗リウマチ薬の導入が進められている。

1. 従来型の抗リウマチ薬

従来型の抗リウマチ薬としては、ブツミン(リチル)、サゾリチン(サゾリチン)、メトトレキサート(リウマチックス、以下MTX)、レフルノール(アラバ)などがあり、しばしば臨床的寛解を誘導する。なかでもMTXは高い臨床的有効性があり、関節リウマチの治療におい

てアンカードラッグ(世界的に実質上の第一選択薬)である。しかしながら問題点としては、日本の保険適応上、ブツミン、サゾリチンなどの抗リウマチ薬の無効例(3ヶ月投薬)で使用が可能になること、またアンカードラッグであるMTXを使っても50%以上の症例には十分な臨床効果がえられず、また画像的寛解を誘導する事は少なく、関節破壊が進行する可能性があるといわれている。

2. 生物学的製剤

関節リウマチの病態が解明されるにつれて、病態に関わる鍵となる分子をターゲットとする新たな治療戦略が開発された。生物学的製剤による抗サイトカイン療法、免疫制御療法はそのような特徴をもつ薬剤である。イフリキマブ(キメラ型モノクローナル抗TNF α (tumor necrosis factor α)抗体、レキド)、イリキムブ(TNF α レプター-1gG・Fc融合蛋白、イブリン)、アダリマブ(ヒト型モノクローナル抗TNF α 抗体、ヒミシ)、アキソラ(IL-1レプター-アソクニスト)、アバタセプト(CTLA(cytotoxic T lymphocyte antigen)-4lg(immunoglobulin)),リツキマブ(キメラ型CD20抗体、リツキマブ)の6種類がすでに海外では認可されている。国内では、2003年7月にイフリキマブ、2005年3月にイリキムブが認可された。

これらの生物学的製剤の使用により、MTXの効果不十分例に対して、50~80%にも及ぶという極めて高い臨床的有効性、及びMTXでも関節破壊の抑制が完全に止められなかったものが、関節破壊の進行を強力に抑止するともいわれている。しかしその反面で重篤な感染症や悪性腫瘍誘発、注射時反応など注意すべき面も多い。また薬剤費が極めて高価であることが医療経済的な問題を提起している。

おわりに

関節リウマチは、比較的良性的疾患であると誤認されてきたためか、早期治療と疾患活動性の十分な抑制が必要であることが現在まで浸透してこなかったと思われる。しかしながらQOLが尊重される現在においてQOLを著しく低下させる関節リウマチは経過良好な疾患ではありえない。前述のような有効な治療法がありながらそれを選択しない、すなわち消極的治療が無難であるというのは過去のものであるということを認識し、早期から積極的に関節リウマチを治療していくことが必要である。

～新ドクター紹介～



整形外科医長
平賀 康晴

1. 弘前大学
2. 平成4年
3. 競馬
4. 他人は自分を映す鏡である。
5. 時間と気持ちに余裕があって良いと思います。
6. 初心を忘れず頑張ります。

1. 卒業大学
2. 卒業年度
3. 趣味
4. 座右の銘
5. 公立野辺地病院の印象
6. 抱負

OB便り

追憶の日々

元管理課長補佐
敦賀 優美子

私が、野辺地病院に勤務させて頂いた38年間は、私の人生そのものと言っても過言ではありません。

昭和40年、18歳で検査室に助手として配属され、血液や糞尿等の検体、多様な検査器具、化学式のラベルが貼られたたくさんの試薬を見た時は途方にくれたものです。6年後給食の事務室へ配置換えとなり、大鍋のお粥やみそ汁を見て驚いたものです。1年の後、午前中は内科の受付、午後は交換手という変則的な勤務体制の辞令に戸惑いながらも、8年間を忙しく過ごしました。

その後は、新患受付、再来受付、会計窓口等を経て用度課へ。恥ずかししながら、用度の意味も分らず、辞書を引き、物品の供給を扱う事を知りました。ここでも、診療材料の種類の多さに驚き、医療器械の高額なことに驚きました。その後、管理課等を経験し、56歳で退職。その間、実に様々な出来事があり、多くの人達との出逢い、そして別れがありました。辛い事も悲しい事も数あり、涙した事もありますが、楽しかった事の方が、固くなりつつある頭の中を、臆気ながら、走馬燈のように駆け巡ります。

当時は、掃除も白衣等やりネン類の洗濯もすべて職員で賄っていました。院内の備品を造る大工さんもいて、ボイラーマンがゴミの焼却を行っており、それぞれの部署では、ガラス掃除等も自分達でや

り、年に何回かは、全員で院外の清掃をし、事務当直には、今では到底考えられない事ですが、レントゲン技師や検査技師も当たっていました。

また、男子には野球部、女子にはバレー部があり、裏庭にネットを張り、勤務終了後に練習に励み、大会ではアベック優勝したこともあります。

ダンスパーティーも開かれ、若手ドクター等によるハワイアンバンドも結成されていました。元旦には、男子はスーツ、女子は和服で正装し新年を言祝ぎ、各月の誕生日の職員と一緒に院長先生が食事会を開いてくれた事もありました。

その他、職員の親睦を図る行事がたくさんあり、職種に関係なく、皆が協力し合って日々の業務を円滑に行っていました。

古き佳き時代を懐かしむ事は、歳を取った証拠と言いますが、本当にそうだと思います。

私も、もうすぐ還暦を迎えます。還暦に赤い物を着るのは、赤ちゃんに戻り、新たな人生が始まるからだそうです。今は、たくさんの懐かしい思い出をくれた野辺地病院に感謝しつつ、残された限りある人生を、大切に歩んで行きたいと思っております。

大変困難な時期に直面している野辺地病院ですが、今後も地域住民の健康を守るべく、健在でありますよう、心から願うばかりでございます。

職場紹介

中央材料室

主任准看護師

山崎 イコ

私たちの職場であるサプライセンターは、中央棟1階にあり、現在4人が勤務しています。私たちは「今日も1日、明るい笑顔と進んで声がけをしよう」をモットーに、1日をスタートさせています。私たちの職場は、ちょっと失礼なのですが、院内で一番平均年齢が高いようです。でも、気力、体力、若さ？では負けないつもりで頑張っています。

それではサプライセンターを少し紹介いたします。サプライセンターでは、4人のうち3人がサプライ業務を主に担当、1人が洗濯を担当しています。



サプライセンターの業務は、手術室や病棟・外来から運ばれた手術器械や診療器材を、(全てではないが)超音波洗浄器を使い洗浄後、オートクレーブやエチレンオキシサイトガスを使用して、消毒・滅菌し払い出すことです。手術器械の消毒・滅菌には特に注意を払わなくてはならず、手術室スタッフの協力をも得て行っています。私たちが一番気を遣うことは、各部署から集まってくる診療器材は、見た目は綺麗ですが種々の細菌が付着しており、それを安心して使用していただけるよう、正しい消毒・滅菌をして、返すことです。間違った消毒・滅菌は患者さんの生命を脅かすことにもなります。また、サプライセンター自体に在庫が少ないので常に使用期限の点検、各部署所有の物が出された時は、破損・汚れ・変質等をすばやくチェックし、指定された消毒・滅菌を行い使用期日に間に合わせるよう努力しています。サプライセンター業務のほかに、病棟・外来を中心にメッセンジャー業務も兼務しています。病院には多くの職種があります。私たちもその1つの分野で必要とされるよう、今後も気を引き締め頑張っていこうと思っています。

管理課

主事 秋田 誠

管理課のある中央棟5階といえば、院内最上階にあり、烏帽子岳が一望でき、その烏帽子に沈みゆく夕日に心奪われ、時を忘れる・・・

そんなイメージではありますが、残念な事に私のデスクからは、その烏帽子やら夕日やらは見る事ができません。

が、しかし各病棟の皆さんが懸命に働いている様子は見ることができ、その姿に勇気づけられる毎日です。—ホントです—

管理課とは、病院運営全般を管理し、皆さんが働きやすい環境を整える部署です。

シ〜んと静まりかえった室内は、耳をすませば(♪カントリーロード・・・)、パソコンのキーボードを一心不乱に打つ音、ペンを我武者羅に走らせる音、印鑑を一印入魂して押す音(???)といったところでしょうか・・・それゆえ、“管理課はなにげに敷居が高くて行きにくい”とか、“シ〜んとしていて、行けばみんながこっちを見て恥ずかしい”という人もいますが、多分それも気のせいです。

本当は事務長をはじめとする10名のスタッフは皆、朗らかで、楽しい人ばかりです。

ここはなかなか気軽に職員が来ない部署なので誰かが来ると嬉しくて、珍しくて話しかけてくたて仕方ないだけなのです。(オタクじゃないよ・・・)もっと気楽に来てもらえるとう嬉しいです。

私たち事務職は、病院の中において直接『命』を守るという仕事ではありませんが、命を守る医療スタッフを支え、命を守る組織を運営していく仕事と考えています。

文書・数字共、間違え事の許されない冷徹さが求められます。

しかしその中で、スタッフを助け組織がよりよく運営されていくために私たち事務職にも時には、温かさが必要だと思います。

冷徹さの中にも温かさを持った管理課・・・

そんな管理課をめざしがんばっていきたくて考えています。

ホントに皆さん、気軽に相談に乗りますので声をかけてください。



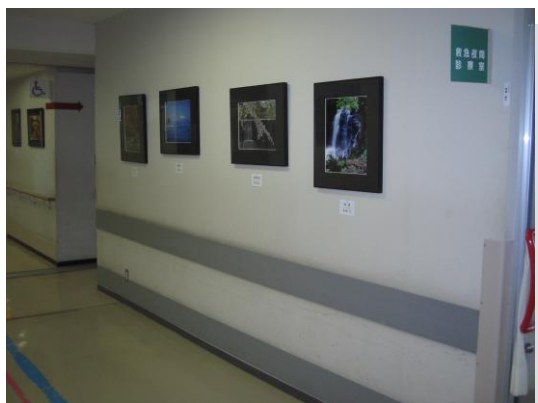
☆平成18年度 療養病床 敬老会☆

9月15日、本館4階病棟において敬老会が行われました。
職員たちによる歌や踊りに入院されている皆様も楽しいひとときをすごしました。



ミニギャラリー情報

フォトグループ虹様（代表新谷吉三郎氏）より、内科外来廊下に展示してある写真を交換していただきました。素晴らしい作品をご覧ください。



編集後記

秋の行楽シーズン、樹木が色づき風景全体が赤や黄色や茶褐色に染まる。紅葉の風景は、寂しさや憂いのような感情を呼び起こしながら私たちに魅了する。紅葉を楽しむ旅は、そういう「旅情」をもたっぶり味わう事が出来て人気が高い。中でも、八甲田山は大岳を主峰に高田大岳・井戸岳・赤倉岳・田茂菴岳などの山が連なり、冬は樹氷と一面の銀世界に

覆われるが、秋は燃えるような紅葉が見事でトレッキングには最高である。また、山麓の多くには酸ヶ湯・城ヶ倉・谷地・猿倉・鶯などの多くの温泉が湧き、じっくりと湯めぐりを楽しむのも良いでしょう。

編集委員

| | |
|-------------|-------------|
| 澤田 雅章(医局) | 四戸 巧(医事課) |
| 野坂 嘉友(検査科) | 四戸 まるみ(看護局) |
| 阿部 俊郎(薬剤科) | 松村 明美(看護局) |
| 前田 ひとみ(看護局) | 瀧澤 法仁(管理課) |

平成18年10月31日発行
広報「わかすげ」第10号
発行：北部上北広域事務組合
公立野辺地病院

〒039-3141

青森県上北郡野辺地町字鳴沢9-12